

教科	工業	科目名	インテリア計画	単位数	2
学科	インテリア	学年	1 学年	履修区分	必修
使用教科書	インテリア計画(実教出版)				
副教材など					

### 1. 科目の目的

人間が社会生活を送る多様な空間の概念を理解し、インテリア計画の基礎となる造形的感性と空間的心理および、環境問題に関する知識や技術を習得し、活用する能力と態度の育成を目的とする。具体的目標として、高学年で学ぶインテリア各種空間の設計に発展する基礎知識を学ぶ。

### 2. 授業の内容と進め方

講義のみの授業にならないように、教科書を理解させるだけでなく、実習・製図科目と連携をとって、各種資格試験の取得にもつながる知識を習得させる。

### 3. 学習する上での留意点

造形の原理や色彩の概念・テクスチャーなどの装飾の基本、空間の認知・人の行動特性や動作などの空間の考え方、および、気候や光・音・熱などの環境の影響などインテリア空間の計画に必要な諸要素を、できるだけ具体的に身近な現象やデータから理解しやすい方法で学習する。それらの基礎的・基本的な要素を確実に習得し、さらに、人間工学の考え方、インテリアの安全対策、スケールやプランニングのテクニックを加えて、インテリアの空間計画に応用できるような技術を身に付ける。また、講義のみの授業にならないように、実習や製図科目と連携を取って学習を進めて行く。

### 4. 課題等について

- 1) 配布した問題プリントを解答し、提出させる。
- 2) 各単元において、小テストを行い、そこまでの内容理解度のチェックをする。さらに理解がされていれば合格とし、理解が不足していれば補習・再テストを受け合格するまで繰り返す。

### 5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
知識・技術	インテリア計画に必要な諸要素の基礎的・基本的な技術を活かしたインテリア空間プランの提案によって、インテリア計画の技術を身につけているか。また、新たな視点から応用発展的に捉え、実際にインテリア空間プランを提案し、設計製図やパース・CADによって具現化できるか。
思考・判断・表現	インテリア計画に必要な諸要素の基本的な知識や技術を活用し、思考・判断して、具体的な事象に対して深く考えるとともに適切に判断し創意工夫する能力を身につけているか。
主体的に学習に取り組む態度	身近な生活空間の諸事象に常に関心を持ち、インテリア計画で学習する基礎的・基本的な技術を実生活で確認したり、調査や実験を行うなど意欲的に取り組み、創造的で実践的な態度であるか。

### 6. 評価の方法

評価については、定期考査の成績や課題の提出状況、授業態度、授業・課題への取り組む姿勢を総合的に判断する。

- 1) 定期考査および実力考査
- 2) 課題への取り組み
- 3) 授業への取り組み(出席状況・発表・意欲・ノートの内容)

《指導計画》 科目名 インテリア計画

1 学年

2 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	1. インテリア計画の概要 1.1 インテリアの概念	<p>インテリアとは、建築物の床・壁・天井で囲まれた内部空間のことである。インテリアは物理的・心理的に人間の肌になじみやすい材料によって美しく仕上がっている。ここでは環境や人間の物理的な条件や、人の心理・感性などをきめ細かな見方でとらえ、安全で快適な目的に合った人間の生活空間を提案する技術を学習する。</p> <p>インテリアデザインにおいて、形態・色彩・テクスチャー・空間などの造形要素が、人間の心理にどのように働きかけるか、具体的に考察していく。人間の感覚の特徴や、造形要素が感覚をどのように刺激するのか、形態・色彩・テクスチャー・空間の要素の順に学習する。さらに、空間における人間の行動の心理的特性について学習する。</p>	行動観察
	5	1.2 インテリア計画		質疑応答
		1.3 生活と住まい		
	6	1.4 住まいの性能		課題提出
		2. インテリアの造形と心理		
	7	2.1 人間の感覚・知覚と造形		小テスト
		2.2 形態		
		2.3 色彩とテクスチャー		期末考査
	二 学 期	9		2.4 空間の認知
2.5 空間行動の諸相			質疑応答	
10			中間考査	
		3. インテリアの環境		
11		3.1 屋外環境	行動観察	
		気 候	質疑応答	
		気 候	課題提出	
12		湿 度	小テスト	
		風 雨, 日 照	期末考査	
三 学 期	1	3.2 屋内環境	行動観察	
		採 光	質疑応答	
	2	照 明	小テスト	
		音, 熱	学年末考査	
	3	空 気		